

【Z世代会議×マンダム 座談会調査レポート①】

ナンバーワンよりオンリーワン、「他人よりも自分に負けたくない」が80% 低体温と思われがちな若者たちが持つ「ガチ勢」マインドとは

株式会社マンダム(本社:大阪市、社長執行役員:西村元延)は、2018年3月29日(木)に学習院大学特別客員教授 斉藤徹氏をファシリテーターに迎え、現役大学生25名を集めた座談会調査を実施しました。

Z世代会議×マンダム 座談会調査サマリー

- 1.「ガチ勢」という言葉は趣味、スポーツ、キャリア開発などさまざまなジャンルで使用されている。
- 2.現役大学生の多くが「ガチ勢」マインドを持っており、「他人に負けたくない」という競争心よりも、「自分に負けたくない」という気持ちを持つ人が80%を占めた。
- 3.「ガチ勢」という言葉は、“何かに本気で取り組んでいる”、“好きなものに熱中していて人生を楽しんでいる”といった非常にポジティブな意味で使われている。

※本リリースでは、各世代の呼称を下記の定義に基づき使用しております。
Y世代(Generation Y)…1980年代～1990年半ば頃に生まれた世代

X世代(Generation X)…1960年代初頭～1970年代頃に生まれた世代
Z世代(Generation Z)…1990年半ば～2000年頃に生まれた世代

この件に関するお問い合わせ先

株式会社マンダム
広報部

- 東京オフィス 下川/ 萩原/ 片岡/ 奥/ 五嶋
- 大阪本社 奥田/ 酒井
- プレスメール press@mandom.co.jp

TEL.03-5766-2485 FAX.03-5766-2486
TEL.06-6767-5021 FAX.06-6767-5045

●マンダムウェブサイト <https://www.mandom.co.jp/>



1) ソーシャルネイティブ世代に広がるさまざまな「ガチ勢」マインド

今回の座談会にて、「ガチ勢」という言葉がソーシャルネイティブ世代の若者たちのなかで、ごく当たり前に使われていることが分かりました。元々はゲーム用語だった「ガチ勢」という言葉は、最近では、趣味、スポーツ、キャリアと多様なジャンルで使われており、“何かに本気で取り組んでいる”、“好きなものに熱中していて人生を楽しんでいる”といった意味で使われていることが分かりました。

2) モチベーションの源泉は「他人」よりも「自分」

「ガチ勢」マインドを持った若者たちのモチベーションとしては、「**他者に負けたくない**」という競争心よりも、「**自分に負けたくない**」という気持ちが80%を占めており、**ナンバーワンよりオンリーワンを志向する傾向**があることが判明しました。

3) ソーシャルネイティブ世代が抱く「ガチ勢」のイメージはポジティブ

今回の座談会参加者に対して、「『ガチ勢』と聞いてどんなイメージがありますか?」と質問をしたところ、「ガチ勢」という言葉に対して、“積極的、パワフル、前しか見えない”、“熱心に何かに取り組んでいる感じ”、“人生を楽しんでる”といったイメージが多く挙げられ、「**ガチ勢**」は**非常にポジティブな意味として使用されることが多い**ことが分かりました。

「ガチ勢」と聞いてどういうイメージがありますか?

- 物事に**本気**で取り組んでいるイメージ。
- 積極的、**パワフル**、前しか見えない。
- シンプルに、あることに真摯に取り組んでいるイメージ。
例えば、スポーツ系でガチ勢といえばサークルというよりは、**部活やクラブチームに所属**してるとか。
本気度が違うイメージです。(ちょっとオタクにも近いかも)
- 本気なんだなって思う。
- 熱心**に何かに取り組んでる感じ。
- 本気度のレベルが高い**。
- 本気で取り組んでいるひとたち。
- 人生を楽しんでる**。パリピ。
- 自分と比べて**5~10倍時間やお金をかけてる**。
- めっちゃ好きなもの**がある人。
- 周りが驚くくらい打ち込んでいる人。
- 楽しみながら頑張ってる感じ。
- 一生懸命!
- 本気で生きてる人、何かに一生懸命な人、何かに夢中、軽い気持ちではやっていない。
- 何かしらのジャンルに**時間を惜しみなく費やしている**。
- その分野に真剣に取り組んでいて且つそれに**特化している人。(プロ)**
“意識高い系”と比べるとポジティブな印象で、
本当にその分野に長けた**(いろんな意味で)ヤバイ人**。
- 周りからは、なぜそこまで頑張っているのか理解できない**けど、本人は周りの声に動じずに、**強い信念**を持ち、**その道を極めている**。
- 意識高い系、本気になりすぎている**人たち。
- その物事について、**本気になりすぎて近寄りたくない**イメージ。
- 客観的に見てしまう、違うジャンルだと近寄りたくない**。

Z世代座談会の開催模様



Z世代会議×マンダム 座談会の開催概要

目的 : Z世代男女の意識調査

参加者 : 現役大学生25名

日時 : 2018年3月29日(木)

運営 : Z世代会議、株式会社マンダム

場所 : 株式会社マンダム 青山オフィス

「Z世代会議」について

ソーシャルネイティブ世代の若者たちの価値観、ライフスタイルを研究し、新たなサービス・製品を創発するためのプロジェクトとして、株式会社dot、株式会社4th、株式会社ループス・コミュニケーションズのメンバーにて創設。



学習院大学特別客員教授 齊藤徹氏によるコメント(本座談会を終えて)

「Z世代」の心を動かすには、好きや楽しいを理解し、共感すること

「X世代」の目線からみた、「Z世代」との世代差を踏まえたコミュニケーションのコツとは

今回の座談会を通して、Z世代の特徴として、「ナンバーワンよりもオンリーワン」を志向する傾向があることが分かりました。私も「X世代」の一人として、自分たちの世代と「Z世代」の若者たちとの世代差を把握しておくことは、日常のコミュニケーションにおいても非常に大切なことだと考えています。

今の「X世代」は、効率性と成果を重視する環境で育ってきました。リストラや就職氷河期といった苦難も味わいながら、グローバルな競争の中で常に目標を達成することを求められてきました。その経験を通じて醸成されたのが「関与し、責任を負い、目標を達成する」というメンタリティです。

一方、失われた20年を経て、日本の社会は成熟しました。また、インターネットや携帯、ソーシャルメディアなどの普及により、個人の持つ情報量が格段に増えました。そのような環境下で育った若い世代の意識はX世代と大きな差が生じています。

今の「Z世代」の多くは、競争よりも多様性、ナンバーワンよりもオンリーワンを目指しています。また、競争社会では当たり前だった「賞罰による管理」に違和感を感じ、それよりも自分自身の「好き」や「楽しい」を大切にします。

若者を画一的に扱ったり、賞罰による外発的な動機づけで動かそうとしても、彼らのやる気は引き出せません。むしろ価値観の違いを感じて、他の選択肢を考え始めるでしょう。「Z世代」のやる気を引き出すには、彼らの「好き」や「楽しい」を理解し、共感すること。どんな仕事でも「楽しく」することはできます。「楽しいでは仕事は成り立たない」なんて決めつけず、まずは彼らの目線でコミュニケーションし、内発的な動機づけを大切に作る環境をともにつくることです。

つつい口に出てしまう「～すべき」という表現を控えて、彼らの「したい」に心のアンテナを切り替えてみるのはいかがでしょうか？若者とともに関心を見つけて、共感してあげた時に「Z世代」は目を見張るような熱量を見せてくれるはずですよ。

学習院大学特別客員教授 齊藤徹氏 プロフィール

[プロフィール]

学習院大学経済学部経営学科 特別客員教授。(株)ループス・コミュニケーションズ代表。
2016年に学習院大学生と自主ゼミ「イノベーションチームdot」を設立、2017年には株式会社dotを設立して事業化。日常的にZ世代の学生たちと交流し、ともに人を幸せにするイノベーションを世界に広げる活動をしている。著書に『再起動 リポート』(ダイヤモンド社)、『BEソーシャル!』『ソーシャルシフト』(日本経済新聞出版社)『新ソーシャルメディア完全読本』(アスキー新書)など。Z世代会議リーダーも務める。

